

1. 活動場所に関する事前調査の内容

- 実施当日は風向きや天候により、実施予定フィールドでの開催の可否の判断、代替フィールドの選定を行う
- 2か月前より実施予定フィールド及び代替フィールド候補地の現場周辺の環境変化や土木工事等による影響などを調査。使用の適否を判断。
このほかに前日、前々日の天気予報から実施フィールドの最終選定を行う。

2. 施設・設備・用具等の安全性の確保に関する具体的な事項

- 使用器材に関しては基本的に年2回のオーバーホールを実施。
このほかに平時の点検修理を随時実施。レンタル品の返却時には全ての状態点検を実施。
また万一このチェックに漏れた場合に備えて、日々の使用前にも点検を実施。
点検時に問題が発見された場合は代替品と直ちに交換し、当該品は修理、調整などの対応を実施している。

3. 活動当日の実施判断基準

- 天気予報による警報、注意報の有無。風速、風向による天候、海況予測。
- 観天望気による実際の空模様。これらを総合判断し、さらに学校側担当者と協議の上で決定する。

4. 実習中の生徒の保護、監視、救助体制

- 直接的に参加生徒の保護、監視を行うインストラクター対生徒の人数比はメニューごとに予め定められた範囲とし、必要に応じて人数比を下げたチームも編成する。生徒は十分な知識を身に付けた上で実習に参加しているがインストラクターは自らが担当するすべての生徒の動静に注意を払い、監督中に起こりうるトラブルすべてに即応できる体制を維持する。また健康上の理由などにより不適切だと判断した場合必要に応じて参加を中止させる。
- この他に総括責任者として、陸上で全体監視をするスタッフを1名配置。

5. 指導者の資格等の有無及び人数。救命法等の研修受講の有無

- プログラムを担当するインストラクターは、ダイビング指導団体の現役インストラクターであり、その資格取得のためには救命救急法の受講が必須とされている。また複数のスタッフが救命法の指導員資格も有する。
- 当該事業所は「沖縄県ダイビング安全対策協議会」の会員でありこの協議会が主催する訓練に年間に複数回参加しており、海上保安庁との合同訓練にも参加している。

6. 活動における生徒の班編成の規準や活動前の事前指導の内容

- 班編成は 前述した人数比を超えない範囲で構成する。メンバー構成に関しては 学校側に依頼しグループ名簿を作成していただく。健康状態などで特記事項のある生徒などについては学校側と密に連携する事で対応する。

7. 非常事態における救急体制

- 別紙

8. 保険加入状況

- **傷害保険**
損保ジャパン日本興亜
死亡：2,000万円 / 傷害医療費：60万円 / 救援者費用：100万円
入院日額：5,000円 / 通院日額：3,000円
- **施設・受託物・生産物賠償責任保険**
パディ・アジア・パシフィック・ジャパン団体保険
身体 1名1億円/1事故2億円 / 財物 1事故1千万円
受託財物 1事故500万円 /
生産物身体 1名1億円/1事故2億円 / 財物 1事故1千万円